

COUNTRY RISK WEEKLY BULLETIN

15 July, 2009

IN THE HEADLINES



世界

大量の在庫調整が終わり財政刺激策および金融緩和に支えられて信用収縮が緩和しつつある中で最悪の状況は脱したとする兆候も見られるものの、**世界の GDP** は 2009 年には 2.9% 縮小することが見込まれている。暫くは、回復は不安定なものとなり、2010 年には **わずか 1.6%** の成長となるだろう。**世界貿易** は 2009 年には 13% 縮小し、2010 年には 2% 成長するであろう。**原油を含むコモディティー価格** はその急激な下落を再度たどりつつあり潜在的には不安定である。**振興国経済** は切り離れて(デカプリングされて)いないが、中国、インドやブラジルなどの大きい経済は内需主導の回復の兆しを見せている。予想していた通り、政策調整の基本となる安定した実行力のある政府を持ち、強固な対外流動性ポジションおよび低い債務比率を持った経済はより耐性をみせている。相対的に健全な経済について、新しいフレキシブルクレジットライン(FCL)によってより容易に従来より多額の IMF 資金へアクセスできるようになったことは、伝播に対して重要なバッファーになっている。



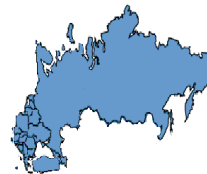
アジア

インド 国民会議主導の連立は 5 月の選挙で予想外に勝利してその権限を新たにし、第 1 四半期の GDP も予想外に上振れた。**南アジア** のその他の地域では北部 **スリランカ** におけるタミル独立分離主義者との軍事衝突は終結したように見える。**中国** の経済刺激策は輸出の落ち込みを内需が打ち消したことからプラスの効果を見せている模様である一方、**台湾** と **香港** は深刻な不景気にある。とはいえ、全般的には中国・台湾・香港のカントリーリスクにかかる指標は依然として良い水準を保っている。世界貿易の崩壊は **東南アジア** をも深刻な景気後退に陥らせ、**タイ** については継続する政治不安によって更に弱体化している。**フィリピン** は予想外に耐性を見せている。第 2 四半期の先行指標によれば **韓国** の貿易統計の改善と **シンガポール** の GDP データが、当該地域の下期におけるゆっくりとした回復を示唆している。2009 年における(アジア) **地域 GDP** の 3.1% 成長(中国とインドの影響)と、2010 年の 5.3% 成長が見込まれている。



ラテン・アメリカ

底堅いコモディティー価格と為替水準が安堵感をもたらすが、当該 **地域の GDP** は 2009 年には 2.2% 縮小し、2010 年にも 1.7% 程度の成長となるだろう。豚インフルエンザと米国の危機に影響を受けた **メキシコ** の GDP は 6.5% 縮小するだろう。**ブラジル** は相対的に良好な状態にあるものの、GDP は 1% 程度は下落するだろう。しかし、双方とも、**チリ**、**ペルー** と **コロンビア** がそうであるように、十分な外準規模と健全な政策実施歴の恩恵を受けることになろう。**メキシコ** と **コロンビア** は既に IMF の予防的な資金へのアクセスを確保しており、これは重要なクッションとなる。**アルゼンチン** 大統領の権力は中間選挙によって更に弱まった。**ベネズエラ**、**エクアドル** と **ボリビア** が低い原油価格に合わせた支出に調整を余儀なくされている中、正統派と過激左派の相対的な利点が試されるかもしれない。**中米** と **カリブ諸国** は観光業と出稼ぎ労働者からの送金の落ち込みによる打撃を受ける中、**ホンジュラス** は、争いになっている大統領の問題が解決されなければ国際的な資金調達手段から見放されるだろう。



中欧・東欧

当該地域は世界的な金融および経済危機により最も打撃を受けている。対外的な資金調達手段が劇的に少なくなり、輸出への需要が崩壊する中では、大半の経済を不景気に引き摺り下ろすだろう。**地域の GDP** は 2009 年第 1 四半期に 6-7% 減少した後、2009 年全体では 5.4% 縮小するであろう。ユーロ圏の一員としては **スロベニア** と **スロバキア** は景気後退関連のリスクに直面するだろう。通貨リスクおよび民間セクターの対外債務にかかるリスクは、**チェコ共和国**、**ポーランド** および **クロアチア** ではさほど高くないが、それ以外の国ではずっと高い。**ウクライナ** と **ラトビア** の通貨ベッグは維持不能かもしれない他の固定相場制の国に伝播するリスクをはらんでいる。**ロシア** と **トルコ** の通貨および外貨準備高は、第 1 四半期を通してその下落を懸念されたところ安定的だったが、依然として更なる対外ショックに対しては非常に弱い。IMF との新規プログラムへの合意に対して躊躇しているトルコは、そのカントリーリスクを高めている。



中東

レバノン と **イラン** における投票は波乱に富んでおり、前者については、政治的な麻痺状態が部分的には続くと思われるものの、親西側同盟が新たな権限を再確認する形で勝利した。大統領選の結果について異議が唱えられた後者についてはデモや街中での暴動につながった。**イラク** も、原油セクターが回復しているとはいえ依然としてリスクが高い。**イスラエル** では右派の連立政権が最終的には形成され、パレスチナ情勢の見通しも不透明な中、当該地域全体としては引き続き、政治、社会、治安のいずれの面においても懸案の地域となるだろう。方々、**サウジアラビア** では直近の任命が(王位)継承にかかる問題を取り除いたが、**湾岸協力会議(GCC)** 通貨同盟は、**UAE** が **オマーン** に続いて 2010 年の第 1 ステージでの加盟から引いたことで、内容が薄弱になってきた。原油価格が 2008 年 12 月から上昇してきたとはいえ、世界的なエネルギー需要が引き続き弱い中では当該地域の GDP 成長率は 2009 年には 1.3% に留まるだろう(2003-08 年の平均成長率は 5.7%)。



アフリカ

地域 GDP 成長予測は 2009 年には 0.6% と下方修正され(2003-08 では平均 7.1% であった)、これは **南アフリカ** での景気後退を反映している。同国では 1% ほど縮小し、他のコモディティーに対する需要の落ち込みは、収入を減少させ、とりわけ **ボツワナ** のような国に影響を与えている。IMF、世銀およびアフリカ開発銀行からの支援は 2009-10 年にかけて当該地域の政治的・社会的な緊張状態をいくらか和らげるだろうが、その予防にはなり得ない。ピエラ大統領の暗殺の後、**ギニア・ビサウ** での政治リスクは引き続き高く、**ガボン** ではボンゴ大統領の死去に伴う、その地位継承の行方については不透明である。